

<特集「情報標示の諸要素」>

フィンランド語における情報標示の諸要素 Markers of information structure in Finnish

坂田 晴奈
Haruna Sakata

東京外国語大学非常勤講師
Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨:本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は25個のアンケート項目に対するフィンランド語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Finnish data for the question of 25 phrases.

キーワード: 主語卓越型言語, とりたて表現, 不定表現, 情報のなわ張り

Keywords: subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

1. コンサルタント情報

本調査においては、以下のフィンランド語¹ コンサルタント1名にご協力いただいた。

氏名: Sinikka Kurosawa (シニッカ・黒澤)

性別: 女性

生年月日: 1964年8月21日

出身地: フィンランド・ピュフター (Finland, Pyhtää)

母語: フィンランド語ヘルシンキ方言

備考: 日本に20年以上在住 (配偶者は日本人)

媒介言語は日本語である。例文を提示していただく際は、日本語文を示しながらその文が表す状況を説明して調査した。以降に示す例文のグロスと訳は全て筆者による。

2. 情報標示の諸要素に関する調査結果

グロスに関しては基本的にライブツィヒグロスおよび Hakulinen 他(2004)の術語に従う。グロス中の英訳はインターネット上の辞書‘EUdict’ (<http://eudict.com/>)のフィンランド語・英語辞書を参照した。例文中の重要な要素には下線を引いた。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ フィンランド語はウラル語族、フィン・ウゴル語派、バルト・フィン諸語に属する膠着語である。名詞の格変化が15種あり、動詞は人称(単数、複数の1~3人称の他に受動形という不定人称形がある)、時制(現在、過去、現在完了、過去完了)、法(直説法、条件法、可能法、命令法)によって語形変化する。また、否定動詞という人称活用をとまなう否定形を持つのが特徴である。基本語順はSVO、修飾部先行型で、概ね後置詞型である。表記は全て正書法に基づく。

2.1. 主題卓越型類型論の軸項について

(1) 「この土地は野菜がよく育つ. だから高い値段で売れるだろう。」

- a. Tässä maa-ssa vihannekse-t kasva-vat hyvin.
 this:INE ground:INE vegetable:NOM-PL grow.up:PRS-3PL well
 Ne voi-da-an myy-dä kallii-lla hinna-lla.
 it:PL.NOM can-PASS.PRS-3SG sell-AINF expensive-ADE price-ADE
- b. Tässä maa-ssa vihannekse-t kasva-vat hyvin,
 this:INE ground:INE vegetable:NOM-PL grow.up:PRS-3PL well
 siksi ne voi-da-an myy-dä kallii-lla hinna-lla.
 therefore it:PL.NOM can-PASS.PRS-3SG sell-AINF expensive-ADE price-ADE

(1a)と(1b)の違いは、日本語の接続詞「だから」に相当する表現の違いである。前者は順接の表現が特に現れず、後者は接続詞 *siksi* が現れている。いずれも頻度はあまり変わらず、ニュアンスの違いも特にないという。

主題卓越型類型論という観点から分析すると、フィンランド語は日本語のような構造にはならないことがわかる。「この土地は野菜がよく育つ。」の部分は、「この土地では野菜がよく育つ。」のように、主題が斜格(内格)をとる。「(野菜が) 高い値段で売れるだろう。」の部分は、指示詞 *ne* 「それら」を主語として用いて、「売れる」という表現に関しては「売ることができる」の「できる」を表す動詞 *voida* が受動形となる。

(2) 「私は頭が痛い. だから今日は休む。」

- a. Koska pää-tä-mi särke-e lepää-n tänään.
 because head-PART-POSS.1SG ache:PRS-3SG rest:PRS-1SG today
- b. Koska pää-ni on kipeä lepää-n tänään.
 because head:NOM-POSS.1SG be:PRS.3SG sore:NOM rest:PRS-1SG today

日本語における「私は頭が痛い。」という、いわゆる二重主語文は、フィンランド語には存在しない。(2a)は「私の頭を(何か)痛くする」という表現で、(2b)は「私の頭が痛い(病気である)」という形容詞 *kipeä* を用いた表現である。(2a)、(2b)のいずれも頻度はあまり変わらず、ニュアンスの違いも特にないという。

後半の「だから今日は休む。」の部分は、「休む」を表す動詞 *levätä* (>*lepään*) に主語標示があるので、主題卓越型の言語とは異なる構造を持っているのがわかる。

2.2. とりたて表現について

(3) あの人だけ、時間通りに来た。【限定】

Ainoastaan tuo ihminen tul-i ajoissa.
 merely that:NOM human:NOM come-PAST.3SG on.time

限定を表すとりたて表現は、副詞 *ainoastaan* で表される。フィンランド語には、限定の意味を持つ副詞 *vain* が存在するが、(3)のような文で *vain* はあまり用いないようである。その理由についてはよくわかっていないが、(8)の【極端・意外】を表すとりたて表現としては *vain* が用いられているので、*ainoastaan* と *vain* の違いはこの点にあると推測できる。

(4) これはここでしか買えない. 【限定・否定との共起】

a. Tätä ei voi osta-a kuin tää-ltä.
this:PART NEG.3SG can:PRS buy-AINF than here-ABL

b. Tätä ei voi osta-a muua-lta.
this:PART NEG.3SG can:PRS buy-AINF elsewhere-ABL

否定と共起する限定の表現は、接続詞 *kuin* を用いる方法と、否定のみで表す方法とがある。 *kuin* は比較を表す文などで用いられ、英語の *than* に相当する語である。(4a)は「ここ以外では買えない」という表現で、(4b)は「他の所では買えない」という表現である。(4a)は日本語における「しか」に相当するとりたて表現にやや近いが、(4b)はとりたて表現のようにはなっていない。したがって、(4a)の方が提示した日本語のニュアンスに近いと考えられる。

(5) その家にいたのは子供ばかりだった. 【限定・多数】

(5)の日本語を提示した際、コンサルタントはまず以下の文を示した。

(5') Siinä talo-ssa ol-i vain laps-i-a.
it:INE house-INE be-PAST.3SG only child-PL-PART

(5')は、「その家には子供たちだけがいた」という意味である。これでは(5)のニュアンスが十分に表されていない。そこで筆者は、日本語の「ばかり」の用法を説明し、「例えば、家に大人が1人だけと、子供がたくさんいた、という場合はどのように言えますか」と尋ねたところ、以下の文が回答として得られた。

(5'') Siinä talo-ssa ol-i yhde-n aikuisen lisäksi vain laps-i-a.
it:INE house-INE be-PAST.3SG one-GEN adult:GEN in.addition only child-PL-PART

(5'')は「その家には大人1人に加えて子供たちだけがいた」という意味で、筆者が例として説明した状況をそのまま表現しているに過ぎない。日本語における「ばかり」のようなとりたて表現をフィンランド語では簡潔に表すことができないということがわかる。

(6) 次回こそ、失敗ないようにしよう. 【限定・強調】

Seuraava-lla kerra-lla e-mme saa epäonnistu-a.
next-ADE time-ADE NEG-1PL get:PRS not.succeed-AINF

上の文を直訳すると、「次回は失敗できない」となる。日本語の「こそ」に当たるような表現は、フィンランド語にはなく、限定・強調のニュアンスを表すには上記のような表現しかできない。

(7) 疲れたね、お茶でも飲もう. 【反限定・例示】

Väsyttä-ä, juo-da-an vaikka tee-tä.
wilt:PRS-3SG drink-PASS.PRS-3SG though tea-PART

特定の事物に限定せず、例示を表すとりたて表現は、フィンランド語にも存在する。接続詞 *vaikka* は「～だけれども」という逆接表現で用いられることが多いが、(7)のような用法も持つ。日本語の「でも」のように、同音異義語のような用いられ方をする点が興味深い。

(8) 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

<u>Vain</u>	vede-llä	pärjä-ä	use-i-ta	päiv-i-ä.
only	water-ADE	get.on.well:PRS-3SG	several-PL-PART	day-PL-PART

日本語の「さえ」に相当する表現として、副詞 *vain* が用いられる。*vain* は(3)の分析でも述べたように、限定の意味を表すことが多い。

(9) 小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

a.

<u>Jopa</u>	piene-t	lapse-t	joutu-i-vat	autta-ma-an
even	small:NOM-PL	child:NOM-PL	fall.into-PAST-3PL	help-MAINF-ILL
siinä	työ-ssä.			
it:INE	work-INE			

b.

<u>Jopa</u>	piene-t-kin	lapse-t	joutu-i-vat	autta-ma-an
even	small:NOM-PL-PC	child:NOM-PL	fall.into-PAST-3PL	help-MAINF-ILL
siinä	työ-ssä.			
it:INE	work-INE			

(9a)と(9b)の違いは、「小さい」を意味する形容詞 *pieni* (>*pienet*) における小辞 *kin* の有無のみである。*kin* は、追加を表す「～も」という意味で、口語・文語を問わず使用頻度は高い。コンサルタントからは、(9a)と(9b)のニュアンスの違いは特にないという意見をいただいたが、(9b)の方が「小さい」という点をより強調しているように筆者には感じられる。ただし、日本語の「まで」に当たるニュアンスは、文頭の *jopa* のみでも充分であるとネイティブには感じられるようである。

なお、本稿の論点とは直接関わりがないが、「～させられた」という表現は、*joutua*+MA 不定詞入格形で表されている。*joutua* は本来「間に合う、～に達する」という意味を持つが、*joutua* と MA 不定詞入格形 (*mA*² という形態素を持つ不定詞。定形動詞に後続して補助的な意味を表すことが多い) を組み合わせると「～せざるを得ない」という意味になる。

(10) 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

<u>Minä</u>	e-n	halua	<u>mitään</u>	raha-a.
1SG:NOM	NEG-1SG	want:PRS	nothing:PART	money-PART

日本語の「なんか」のような表現は、*mikään* (>*mitään*) 「何も」によって表される。*mikään* は否定文と共起する語で、肯定文とは共起しないという制限がある。

² 母音調和による異形態が存在するため、ここでは「a もしくは ä」という意味で A と記した。以降も同様の表記をする。

- (11) 自分の部屋ぐらい, 自分できれいにしなさい. 【反極端・最低限】

Siivoa edes oma huonee-si itse.
clean:IMP.2SG at.least own:NOM room:NOM-POSS.2SG oneself

日本語の「ぐらい」のような表現は, 副詞 **edes** 「少なくとも」によって表される. フィンランド語の命令文において, 本来対格で現れる目的語は主格と同形になる.

- (12) 私にもちょうだい. 【類似・類似】

Anna minu-lle-kin.
give:IMP.2SG 1SG-ALL-PC

日本語の「も」に当たる表現は, 小辞 **kin** によって表される. 形態素接続の順番は日本語の「私-にも」と同じである.

- (13) お父さんもう帰って来たね, お母さんは? 【反類似・対比 (疑問)】

Isä tul-i jo koti-in. Entä äiti?
father:NOM come-PAST.3SG already home-ILL what.about mother:NOM

疑問形式において対比を表すには, **entä** という語を用いる. **entä** は疑問文でしか用いられず, 通常は文頭に現れる.

以上(3)-(13)をふまえ, 日本語とフィンランド語のとりたて表現を自由形態素か拘束形態素かという観点で表1にまとめる. 自由形態素には (自), 拘束形態素には (拘) と記す.

表1 とりたて表現の比較

用法	日本語	フィンランド語
【限定】	だけ (拘)	ainoastaan (自)
【限定・否定との共起】	しか (拘)	kuin (自)
【限定・多数】	ばかり (拘)	—
【限定・強調】	こそ (拘)	—
【反限定・例示】	でも (拘)	vaikka (自)
【極端・意外】	さえ, まで (拘)	vain, jopa (自)
【反極端・低評価】	なんか (拘)	mitään (自)
【反極端・最低限】	ぐらい (拘)	edes (自)
【類似・類似】	も (拘)	kin (拘)
【反類似・対比 (疑問)】	は (拘)	entä (自)

日本語のとりたて表現が全て拘束形態素によって表されているのに対し, フィンランド語はほとんどが自由形態素によって表されている. さらに, 【限定・多数】 および 【限定・強調】 に相当するとりたて表現はフィンランド語に存在しないことがわかった.

2.3. 不定表現について

(14) 「誰か (が) 電話してきたよ。」【特定既知 (specific known)】

<u>Joku</u>	soitt-i	puhelime-lla.
somebody:NOM	give.a.call-PAST.3SG	telephone-ADE

フィンランド語の不定代名詞 joku は、人物・事物問わず用いられる。

(15) 「誰かに聞いてみよう。」【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

Kysy-tä-än	<u>joltain</u> .
ask-PASS.PRS-3SG	someone:ABL

不定代名詞は、他の名詞類の語とは異なり、格標識が語中に融合された形で現れる。例えば固有名詞 Kaisa (女性の名) の場合は Kaisalta のように格標識が名詞に後続するが、不定代名詞 joku の場合は(15)のように joltain となる。

なお、奪格は通常「～から」というような意味を表すが、動詞 kysyä (>kysytään) 「質問する」に関しては、対象物が奪格をとるというコロケーションがある。そして、動詞 kysyä が受動形になっているのは、フィンランド語の受動形が勧誘の用法も持つからである。

(16) 「私のいない間に誰か来た？」【疑問 (question)】

a.	<u>Käv-i-kö</u>	<u>joku</u> ,	kun	ol-i-n	poissa?
	visit-PAST.3SG-Q	somebody:NOM	when	be-PAST-1SG	away
b.	<u>Käv-i-kö</u>	<u>joku</u>	poissa-oll-e-ssa-ni?		
	visit-PAST.3SG-Q	somebody:NOM	away-be-EINF-INE-POSS.1SG		

不定代名詞 joku は疑問文においても用いられる。(16a)は時を表す接続詞 kun を用いた節が用いられており、(16b)は E 不定詞内格形を用いた節が現れている。この E 不定詞節は時相構文と呼ばれ、kun 節と同じく時を表す節である。(16b)では、(16a)において独立した語であった poissa が E 不定詞節に前接している。

E 不定詞節に定形動詞は現れず、構造上は定形動詞を含む主節に従属している。しかし他の不定詞節に比べると、機能的には独立性が高い。コンサルタントによると、kun 節と E 不定詞節には頻度やニュアンスに差がないということである。

(17) 「誰か来たら、私に教えてください。」【条件節内 (conditional)】

a.	<u>Kun</u>	<u>joku</u>	tule-e,	niin ilmoita	minu-lle.
	when	somebody:NOM	come:PRS-3SG	so let.know:IMP.2SG	1SG-ALL
b.	Ilmoita	minu-lle,	kun	<u>joku</u>	tule-e.
	let.know:IMP.2SG	1SG-ALL	when	somebody:NOM	come:PRS-3SG

不定代名詞 joku は条件節内においても用いられる。フィンランド語には条件法が存在するが、「(誰か来る予定で) 誰か来たら」という「誰かが来る」確実性の高い場合も、「(誰も来ないと思うが、万が一) 誰か来たら」という「誰かが来る」確実性の低い場合も kun 節と直説法を用いる。(17a)では kun 節が冒頭にあり、(17b)

では kun 節が命令文の後にある。接続詞 *niin* の有無の違いはあるが、両者に頻度やニュアンスの違いは特にない。

(18) 「今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う。」【間接（全部）否定（indirect negation）】

a. Luule-n, ettei tänään tule ketään.
believe:PRS-1SG that:NEG.3SG today come:PRS nobody:PART

b. Tänään ei varmaan tule ketään.
today NEG.3SG probably come:PRS nobody:PART

直接・間接の別なく、否定文における「誰も」という表現は、不定代名詞 *kukaan* (>*ketään*) によって表される。来る人数が特定されていないような場合では、分格形が用いられる。(10)の *mikään* と同じく、*kukaan* は否定文と共起し、肯定文とは共起しない。

(19) 「そこには今誰もいないよ。」【直接（全部）否定（direct negation）】

Sie-llä ei ole nyt ketään.
there-ADE NEG.3SG be:PRS now nobody:PART

(18)と同様、否定文における「誰も」という表現は、不定代名詞 *kukaan* によって表される。

(20) 「(それは) 誰でもできる。」【自由選択（free-choice）】

a. Se-n voi teh-dä kuka tahansa.
it-ACC can:PRS.3SG do-AINF who:NOM ever

b. Se-n voi teh-dä kuka vaan.
it-ACC can:PRS.3SG do-AINF who:NOM any

日本語の「誰でも」における「でも」に相当するフィンランド語は、副詞 *tahansa* あるいは接続詞 *vaan* といった語である。両者の頻度やニュアンスに特に違いはない。*tahansa* と *vaan* はいずれも疑問代名詞 *kuka* に後続する。*kuka* に限らず、「いつでも」や「どこでも」といった表現においても、「いつ」「どこ」に当たる疑問代名詞の後に *tahansa* あるいは *vaan* が現れる。

(21) 「そんなこと (は), みんな知っているんじゃないか!？」【自由選択を示す「みんな」】

Ei-vät-kö kaikki tiedä sellais-ta asia-a?
NEG-3PL-Q all:NOM know:PRS such-PART matter-PART

上の文を直訳すると「みんなはそんなことを知らないのか」となり、日本語とニュアンスが異なるように感じられた。そのため、コンサルタントに再度確認したが、他に適切と思われる文は提示されなかった。上の文は反語的な表現と考えられる。「みんな」に相当する不定代名詞 *kaikki* は事物にも用いられる。

(22) 「そんなもの、**誰が**買うんだよ！？誰も買うわけじゃないか！」【反語】

<u>Kuka</u>	osta-isi	sellaisen?	Ei	kukaan!
who:NOM	buy-COND.3SG	such:ACC	NEG.3SG	nobody:NOM

反語表現として用いられる「誰が」は、疑問代名詞 *kuka* で表される。「実際には誰も買わない」というニュアンスを表すため、上の文では条件法が用いられている。

2.4. なわ張り理論について

(23) 「君は英語がうまい**ね**。」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

a. Sinä-hän puhu-t hyvin englanti-a.
2SG:NOM-PC speak:PRS-2SG well English-PART

b. Sinä-hän osaa-t hyvin englanti-a.
2SG:NOM-PC be.able:PRS-2SG well English-PART

(23a)では動詞 *puhua* (>*puhut*) 「話す」が、(23b)では動詞 *osata* (>*osaat*) 「できる」が用いられている点で違っているが、動詞の違いは本稿の論点とは直接関わりがない。これらの動詞はいずれも直説法であり、いわゆる直接形であることがわかる。

人称代名詞 *sinä* には、小辞 *hAn* が後続している。*hAn* は使用状況によって様々な意味を持ちうるが、機能的には日本語の「ね」や「よ」といった終助詞に似ている。初級文法書である *Lepäsmä & Silfverberg (2004: 84)* には、以下のような会話例がある。

(23') - *Kenen nämä paperit ovat?*

「これらの書類は誰のもの？」

- *En minä tiedä. Jos ne ovat Pekan. Pekka aina unohtaa kaikki.*

「僕は知らない。ペッカのじゃないかな。ペッカはいつも色々な物を忘れるから。」

- *Ei. Nämä eivät voi olla Pekan. Tämä ei ole Pekan käsialaa.*

「いや。これらはペッカのじゃないだろう。これはペッカの筆跡じゃない。」

- *Ai, niin onkin. Nämähän ovat minun. Kiitos vain.*

「ああ、確かにそうだ。これらは僕のものだ。ありがとう。」

(*Lepäsmä & Silfverberg (2004: 84)*)

(23')の最後の文において、指示代名詞 *nämä* 「これら」に小辞 *hAn* が後続している。この *hAn* は、「話し手にとってその状況が驚きであった」ことを示すという (*Lepäsmä & Silfverberg (2004: 97)*)。つまり(23')の *hAn* は、「これらの書類」が始めはペッカのものだと思っていたが、実は話し手のものだったことに気づいた(話し手の) 驚きを表している。(23a), (23b)における *hAn* も同様のニュアンスがあると考えられる。

以上のことをふまえると、【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】の場合は、日本語と同様に「直接ね形」で表されると言える。

(24) 「君は退屈そうだ**ね**。」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

<u>Näytä-t-pä</u>	ikävystyneet-ltä.
show:PRS-2SG-PC	bored-ABL

(24)では、動詞 näyttää (>näytät) と形容詞の奪格形が用いられている。この表現はフィンランド語の熟語として多用され、「～に見える」という意味を表す。よって、これは間接形の一つと言えよう。

さらに、動詞 näyttää には小辞 pA が後続している。コンサルタントからは「näytätpä」とは言えるが、näytäthänとは言えない」という意見もいただいた。小辞 pA にも様々な用法があるが、hAn と pA の間には何らかの違いがあるということがわかる。(23)や(23')の例も考慮に入れると、hAn と pA の違いは「他者(話し相手)への働きかけ」の有無が関係していると考えられる。

これを検証するため、(23)【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】の例として「いい天気だね。」および(24)【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】の例として「君のお兄さんは出かけているようだね。」という文を追加して調査した。すると、以下のような文が得られた。

(23") 「いい天気だね。」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

On-pa	kaunis	sää.
be:PRS.3SG-PC	beautiful:NOM	weather:NOM

(24') 「君のお兄さんは出かけているようだね。」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

Sinu-n	velje-si	näyttä-ä	mene-vä-n	ulos.
2SG-GEN	brother:NOM-POSS.2SG	show:PRS-3SG	go-ACT.PTCP-GEN	out

(23a), (23b)では hAn が使われているのに対し、(23")では pA が使われている。これは、hAn が話し手の感情を表しているに過ぎない、つまり聞き手に対する語りかけのニュアンスが薄いのに対し、pA は聞き手に対する語りかけのニュアンスを持つからであると思われる。さらに、(24')に小辞は現れていない。小辞 hAn も pA も、語調を整えるために用いられることがあるので、文全体の語調によっては必須でなくなる。

以上をふまえると、【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】の場合は、日本語と同様に「間接ね形」あるいは「間接形」で表されることがわかる。

(25) 「明日も寒いらしいよ。」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

- | | | | |
|----|--------------|--------------|--------------------|
| a. | Huomenna-kin | näyttä-ä | kylmä-ltä. |
| | tomorrow-PC | show:PRS-3SG | cold-ABL |
| b. | Huomenna-kin | on | luultavasti kylmä. |
| | tomorrow-PC | be:PRS.3SG | probably cold:NOM |

(25a)を直訳すると「明日も寒いように感じられる。」、(25b)を直訳すると「明日も多分寒い。」となる。いずれも、(25)の日本語とニュアンスが異なるように思えたので、コンサルタントに再度質問した。「誰かとの会話で、自分の予測でなく、天気予報で明日は寒いと言っていたのを聞いた後の発言だとどうなりますか」と尋ねたところ、(25c)のような文が得られた。

- | | | | | |
|----|-----------------|------------|------------------------|-----------|
| c. | Huomise-ksi-kin | on | luva-ttu | kylmä-ä. |
| | tomorrow-TRA-PC | be:PRS.3SG | promise-PASS.PAST.PTCP | cold-PART |

(25c)を直訳すると「明日も寒いと思われている。」となる。結果として、いずれの例にも小辞は現れていな

い。そして、「～に見える」, 「多分～だ」を意味する表現が用いられているので, 間接形であると言える。つまり, 【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】の場合は, 日本語と同様に「間接形」で表されることがわかる。

以上(23) - (25)をふまえ, 日本語における情報のなわ張り理論は, フィンランド語にもほぼ当てはまることわかった。機能的には日本語の終助詞に相当する小辞 hAn と pA は, 文全体の語調によって必須でなくなるという点は少し違う。いずれにしても, フィンランド語の小辞 hAn と pA は聞き手への語りかけの度合いによって使い分けられており, 情報のなわ張り理論とは無関係である。

略号一覧

	英語	フィンランド語	日本語
-			形態素境界
./:			形態素内の意味境界
1	1 st person	1. persoona	1 人称
2	2 nd person	2. persoona	2 人称
3	3 rd person	3. persoona	3 人称
ABL	ablative	ablatiivi	奪格
ACC	accusative	akkusatiivi	対格
ACT	active	aktiivi	能動
ADE	adessive	adessiivi	接格
AINF	A-infinitive	A-infinitiivi	A 不定詞
ALL	allative	allatiivi	向格
COND	conditional	konditionaali	条件法
EINF	E-infinitive	E-infinitiivi	E 不定詞
GEN	genitive	genetiivi	属格
ILL	illative	illatiivi	入格
IMP	imperative	imperatiivi	命令法
INE	inessive	inessiivi	内格
MAINF	MA-infinitive	MA-infinitiivi	MA 不定詞
NEG	negative	negatiivi	否定
NOM	nominative	nominatiivi	主格
PART	partitive	partitiivi	分格
PASS	passive	passiivi	受動
PAST	past	imperfekti ³	過去
PC	particle	partikkeli	小辞
PL	plural	monikko	複数
POSS	possessive	possessiivi	所有接辞
PRS	present	preesens	現在
PTCP	participle	partisippi	分詞
Q	question particle	kysymyspartikkeli	疑問小辞
SG	singular	yksikkö	単数
TRA	translative	translatiivi	変格

³ フィンランド語学では, いわゆる過去形は imperfekti (未完了形) と呼ばれ, 現在完了・過去完了を表す perfekt (完了形) と対立する位置づけになっている。

参考文献

- Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen, Irja Alho. 2004. *Iso suomen kielioppi*. Helsinki: Suomalaisen Kirjallisuuden Seura.
- Lepäsmaa, Anna-Liisa and Leena Silfverberg. 2004. *Suomen kielen alkeisoppikirja*. Helsinki: Finn Lectura.

参考ウェブサイト

EUdict <http://eudict.com/>

執筆者連絡先: poutainen@hotmail.com